

はつぜみ しぶつ たけ ふみてと  
初蟬や詩仏は竹に筆採る

{あいさつ代わりの俳句であろう。大窪詩仏は江戸時代の漢詩人で、墨竹画が得意だった。}

ごこん かさま ごようだい いかがい らせられそうろうや  
御渾家様御容体は如何被為入 候 哉。

{あいさつ文。「渾」は一つにまとまったもの、という意味だから、「渾家」は家族一同のこと。「容体」は病状のことだが、ここは単に「皆様お体はお元気ですか」といった意味だろう。}

ぜん や まい ど ありがたき あわせ すぎうらせんせい ざ か あり しょめい か ぼくしよくはいけん  
前夜は毎度難有仕合、杉浦先生の坐下に有て、諸名家墨色拝見、

【昨夜は、毎度ながらお世話になり、ありがとうございます。杉浦先生のもとで掛け軸を拝見させていただきました。】

{冒頭の俳句からすると、大窪詩仏の墨竹画を見せてもらったか。}

かつみず のみ さけ かえ しめいもだし おやどざけ おあま せいとりょうさんばい  
且水を飲んで酒に換よとの師命黙止がたく、もし御宿酒の御余りもやあらんかと、生徒両三輩に

たく おむかい このだんきょうこうきょうこうとんしゅ  
託し御迎ひ、此段恐惶々々頓首

【なおかつ「水を飲んで酒に換えよ」と杉浦先生からお言葉をいただきましたが、それには黙っておられません。「もし、おうちで余っている酒があれば・・・」と生徒の皆さんにお願いし、(酒を持って来たら)迎えてほしいです。】{ずいぶん意地汚いお願いが書いてある。学校の生徒にお願いすべきことではないだろうに。}

やなぎ やはい  
柳の家拝

さかい やすさだせんせい ぎよく か  
酒井保定先生 玉下

あてな ひと ひがしはるちかむらほらしんでん しょう わよんねん しきよ さいじょ こ しょう わ ごねん きげんせつ せつふ その  
宛名の人は 東 春近村原新田で 昭 和四年死去。妻女はる子は 昭 和五年紀元節に節婦として其

すじ ひょうしょう すぎうらせんせい おりい し だん な ちがん あいちけんち たぐんしゅつせい ゆえ  
筋から表 彰 された。杉浦先生とは織井氏の談によれば、名は智眼、愛知県知多郡 出 生で故あ

しゅつぽんそうせき はい はるちかむらしょうがっこう きょうし さかい しぞう  
って 出 奔僧籍に入り、春近村 小 学校の 教 師となる。(酒井氏蔵)